

メルク (MRK)

【セクター】 ヘルスケア

【市場】 NYSE

【企業概要】

ニュージャージー州に本社を多く世界的な製薬大手です。主力事業セグメントは製薬部門（2021年12月期売上高比率88%）とアニマルヘルス部門（同11%）です。主力薬はがん治療薬の「キイトルーダ」です。「キイトルーダ」の2021年12月期の売上高は172億ドルで売上高全体の35%を占めます。また、新型コロナウイルス飲み薬「ラゲブリオ」を開発しました。地域別売上高比率は米国46%、欧州・中東・アフリカ27%、中国9%、日本6%、その他アジア太平洋5%、南米5%等です。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

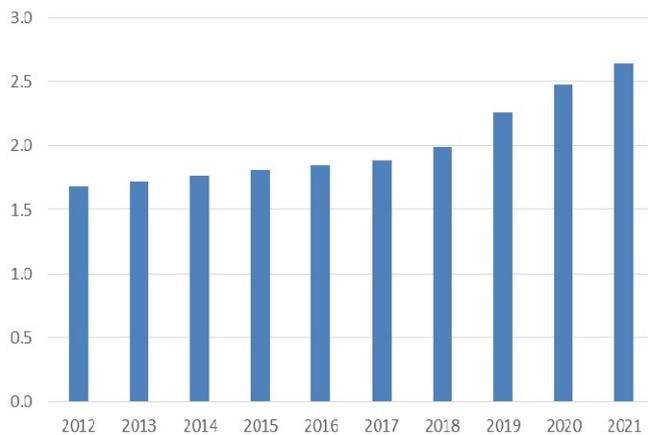
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
20.12期	41,518	11,314	4.53	2.48	10.0	27.6	27.7
21.12期	48,704	16,693	6.02	2.64	15.1	41.1	36.2
22.12期（予）	58,968	18,706	7.36	2.82	18.0	44.0	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）会社資料、BloombergのデータよりSBI証券作成

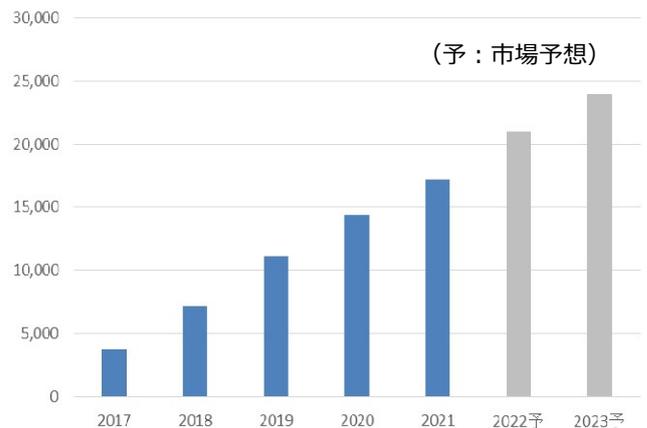
【主要指標】

1株当たり配当（ドル）



（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

「キイトルーダ」の売上高（百万ドル）



（出所）会社資料、BloombergのデータよりSBI証券作成

【会社の見方】

主力薬「キイトルーダ」の他にも、年間売上高（2021年12月期）が10億ドルを超えるブロックバスターは「ガーダシル（ヒトパピローマウイルスワクチン）/ガーダシル9」が57億ドル、「ジャヌビア（糖尿病治療薬）/ジャヌメット」が53億ドル（各33億ドル、20億ドル）、「プリディオン（筋弛緩回復薬）」が15億ドルです。なお、薬の開発パイプラインは豊富で、2021年は122億ドルを研究開発に投じました。この研究開発が成長の源泉の1つになっています。

【見通し・注目点】

2022年7-9月期は売上高が前年比14%増の150億ドルとなり、市場予想を上回りました。主力の「キイトルーダ」の売上高は同20%増の54億ドル、「ガーダシル/ガーダシル9」は特に中国での需要が好調で同15%増の23億ドルと牽引しました。「プリディオン」は同15%増の4億ドルでした。一方、「ジャヌビア/ジャヌメット」は需要減少とジェネリック薬との競争で同15%減の11億ドルでした。新型コロナウイルス飲み薬「ラゲブリオ」の売上高は4億ドルでした（前年ゼロ）。2022年12月期の業績見通しについて売上高を従来予想の575億ドル～585億ドル→585億ドル～590億ドルへ、EPSは同7.25ドル～7.35ドル→7.32ドル～7.37ドルへそれぞれ上方修正しました。株価は11/9に52週高値を更新する力強い動きです。

## 本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

## 手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。